

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293300057		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームものいの家		
所在地	千葉県四街道市物井1806-12		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成27年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・玄関を施錠せずにいつでも散歩に行ける体制づくりをしています。 ・入居者様がスタッフと何でも言い合えるように十分な時間を設けずスタッフは、聞き役に回る体制を作っている。 ・月に一回以上外出・散歩・ドライブ・買い物などで、外部とのかかわりを多く設けている。 ・ターミナルケアを今期むかえましたが、スタッフが落ち着いて対応したところご家族様より感謝の言葉を頂きました。 ・ご家族参加型(準備設営・調理・食事・立食式の家族会)のイベントを開催し、入居者様・ご家族様とで協力して芋煮会・バーベキューを行いました。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の理念とは別に、ホーム独自の理念「第二の我が家」を掲げ、管理者と職員は利用者のこれまでの暮らしができるだけ継続できるように考えながら支援している。職員は利用者の生活歴などの把握に努め、今利用者ができることを維持できるように、見守りや工夫で支援している。職員と利用者の関係性がよく笑い声が絶えない。看取りについては利用者家族の希望が叶い、ホームと家族、関係機関で取り組んだ。家族からはホームで最期を迎えられてよかったと感謝の言葉をもらっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所理念「第二の我が家」の元、利用者様ができることを管理者と職員が理念を共有し自宅ですべてできていたこと(洗濯物干し・たたむ・掃除・食器洗い・拭くなど)を探し実践してもらっている。	「第二の我が家」という分かりやすい表現でホーム独自の理念を掲げ、職員全員で共有している。利用者一人ひとりの家庭での暮らし方をホームで継続できるように、日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の夏祭りに参加後自治会の方より写真を頂くなど今までにない交流ができた。 ・また、ホームのイベントの際には、駐車スペースを貸していただくこともあった。	開設3年を経過して、地区の夏祭りへの参加、地域住民からは野菜や流しソーメン用の竹等の差し入れなど、地域との交流は広がってきている。また、小学校の先生の職業体験なども受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・オープン当時地域住民の方々に認知症とグループホームについての説明を千件以上行いました。 ・時には、入居者様と散歩中お話を頂き理解の言葉を頂くこともありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1度市役所、民生委員、ご家族、ご入居者様、職員で話し合いを行い、サービスの向上に生かしている。実際にご家族様の意見(バーベキュー時もっと参加したい、他のご家族様と話せる機会がほしいなど)を参考にし、取り組んだ。参加できない家族には議事録を送付している。	年4回実施した会議には、行政の職員、民生委員も参加し情報交流を行ってサービスに反映している。参加者を増やす為に週末等に開催するなど日程にも工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて取り組みを報告している。その他、感染症が発生した際は報告、相談している。また、訪問した際は空き情報なども伝え、入居者を紹介してくれることもある。	運営推進会議を週末に開催しても市の担当課及び地域包括支援センター職員が出席してくれるなど関係性が良好で、随時情報交換を行っている。また行政主催の「ケアマネ協議会」にも出席し、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の外部研修に参加したスタッフより、ミーティング時に研修内容を発表してもらい、スタッフ内でも理解を深めている。	月1回のミーティングの中で「拘束をしないケア」について確認し合い、理解を深めている。ドアにベルを付けたり、職員の見守りにより、日中は扉の施錠をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティングの時に随時話すことにより、意識の向上を図り雰囲気作りを徹底している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・ミーティングの時に話しておりますが、今のところ活用は、ありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に時間をかけ十分に説明をしており、変更事項があればその都度不安や疑問点について面会や電話で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議にて意見・要望を伝える機会を設けている。 ・また、利用者様やご家族様より話しやすい雰囲気づくりを大切にしている。	家族会や芋煮会などの行事や普段の面会で家族が来訪する時には意見や要望を聞き取るようにしている。意見などは検討して反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者や管理者は、ミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 ・日常業務の中でコミュニケーションを図り職員より意見を求めるようにしている。	管理者はミーティング等で意見・意向を聞く他に、個別に職員の悩みや相談等を聞く機会を設けている。管理者は意見を言いやすい環境、雰囲気をつくるように心がけ、出された意見は迅速に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間などは把握しており、不安や相談がある際は個々に相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内で研修を行っている。また、外部の研修にも参加できるよう声をかけたり、勤務日、費用の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回法人内のホーム長会議に参加し情報の交換を行っている。また、市内のケアマネージャー協議会の勉強会などにも参加し情報の交換を行い、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前の段階で自宅に赴き、ご家族様・入居者様に会いアセスメントをして少しでも不安な点があれば、解決できるように十分な説明や話し合いをして入居してもらう。 ・場合によっては、実際にホームを見学していただくこともある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前にご家族様の困っていること、不安などのニーズは何なのかを聞き、その取り組みにご家族様にも協力してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に居宅介護支援事務所のケアマネージャーまたは、関係機関と話し合い入居者様がグループホームでの生活に適しているかを検討し、そぐわなければ他のサービス利用を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員都合での時間の経過ではなく生活の場として入居者様主体としてホームで暮らしてもらえるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族様が面会に来やすく、ゆっくり過ごしていただけるような雰囲気を大切にしている。 ・また、ご家族様参加型のイベントを定期的に行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに友人・知人が気軽に遊びに来てもらえる対応と同窓会やご家族との外食などを行い事前に段取りを組み外出しやすい支援をしています。	家族や友人が来訪しやすい環境をつくるように心がけている。また、近隣の農家とも交流がある。家族了解のもと同窓会に参加する人もいるなど、これまでの関係が継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握してスタッフがいつでも話を聞く体制で、利用者様同士の間にスタッフが入り支え合える支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わってもご家族様からの相談や依頼があれば支援するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を日頃の会話などで耳を傾ける。 困難な場合は、ご家族様から意向を聞いたり、生活歴などを把握した上で検討する。	「第二の我が家」での生活が安心して過ごせるように入居時には本人、家族の思いを丁寧に聞き取るようにしている。また職員は日常の中で思いを把握するように努め、対応できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様・ケアマネージャー・医療機関・本人からアセスメントします。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の過ごし方を記録や管理日誌に残す。 ・普段と変わった言動などがあったときは、記録に残して把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様・ご家族様よりニーズを聞く時間を作ったり、本人希望や意向をミーティング時に話し合いスタッフの意見やアイデアを基に介護計画を作成している。	利用者本人の希望は日常生活の中で把握に努めている。その他申し送りノートに書かれた記録や家族の意向を踏まえ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常的な言動を注意深く観察し、特変事項を記録に残しケアの検討・見直しを介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・ご家族様よりニーズを聞きその時の状況にあわせ、訪問マッサージやボランティアを活用する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の希望のデパートや外食・医療機関・を把握し地域資源とのマッチングを図り豊かな暮らしを楽しんでいただける様支援します。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の希望や意向がありかかりつけ医を継続で利用しています。	ホームの協力医が定期的に訪問して、利用者の健康管理をしている。また、これまでのかかりつけ医に受診する場合は家族に対応依頼をして受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループ診察時に看護師が同席することになっており今まで以上に状況の把握してもらえ、入居者様の体調変化の対応がスムーズになりました。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係ができており入院時に家族・看護師・病院・ホーム間で情報交換を密にしております。入院時も定期的に病院に行き病院関係者と早期退院に向け相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のありかたは、契約時に家族様に説明している。終末期にもご家族様と密に連絡が取れ1Fの初の見取りで感謝の言葉を頂きました。	契約時に看取りについての説明をしている。終末期に入った時点で、医師による状況の説明とホームの看取りについての指針を再度家族に説明したうえで、話し合いを持っている。過去に2件の看取りの経験があり、家族からも感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、訪問診療の看護師に研修をして頂きケアに活かしております。また、ミーティング時に入居者様個々の対応方法の確認を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間火災時の対応について消防員たちあいのもと避難訓練を行いました。	消防署立会いのもと、夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施している。シフトを調整し、全職員が参加できるようにしている。また、備蓄も準備している。	昨年に引き続き、地域における協力体制の構築と、あらゆる自然災害を想定した訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員が利用者の居室に入る際には、必ず声をかけてから入るなどプライバシーに配慮した支援を心がけている。また一人ひとりを尊重した言葉遣いを意識するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を表出しやすく時間を取ったり、自己決定のために、選択肢を多くするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ職員都合ではなく生活の場として入居者様のペースに合わせた希望に沿ってその日をおくってもらえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理髪店へ行きおしゃれ染をしたり、スタッフと化粧をしてその人らしい表現ができるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のできることを探し、その人に合った作業をスタッフと共に行っております。	利用者は調理の下ごしらえ、盛り付け、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。普段の献立は管理栄養士が作成しているが、月2回は利用者と一緒にメニューを考えてつくったり、外食なども楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・好むものを把握しており栄養のバランスの偏りそうな人は、工夫した声掛けで対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・一人ひとり状態に応じて解除・見守り・声掛けにて毎食後行っております。 ・状態によっては、訪問歯科の受診も行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて一人ひとりのパターンを把握し、自尊心を傷つけないように配慮し、オムツ等の選択時には、ご家族様と話し合いながら支援しています。	「水分・睡眠・排泄チェック表」に記録し、個別の排泄パターンを把握している。食事摂取量も確認しながら個別に声かけを行い、自立排泄につながった利用者もいる。また、自尊心を傷つけないように配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて看護師と相談しながら行っております。水分量の少ない方は、ゼリーなど形を変えて提供しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合ではなく一人ひとりのタイミングや気分に合わせて入浴を楽しんでもらえるよう支援しています。	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう配慮している。また、焦らせないようにゆっくり準備をしてもらうなど、職員で統一された支援方法で対応している。ゆず湯など、季節感も大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人ひとりの生活パターンや状況に応じて休憩したり安眠ができるように支援しています。 ・リネン表を用いてローテーションで天気の良い日には、布団干しをスタッフと一緒にしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の先生、薬剤師、看護師と連携し、薬の変更があれば、連絡ノートを使いスタッフ内で情報を共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みを把握して生活歴などから、好きな飲み物を一緒に買い物に行ったりします。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を目的とせず買い物を目的として体を動かすようにしています。また普段の会話の中から行き先や解体ものを買いにゆくように支援しています。	近くの団地内を散歩したり、買い物に出かけるなど日常的に外出の機会を作っている。博物館、ホテルのランチバイキング、回転ずしなど、いろいろな場所への外出支援もしており、利用者の希望に応じて出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望する入居者様は、力に応じてお金を自分で買い物をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を掛けることを希望される方がいればホームの電話を利用しております。 ・中には、個人の携帯電話を自由に話している入居者もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家庭的な雰囲気を大切にリビング内をくつろげるスペースを作っています。 ・1か月ごとに季節に応じたカレンダーを入居者様と一緒に作っている。	日当たりの良い場所に大きなソファを置き、利用者は自由に寛いでいる。外出時の写真を掲示しており、利用者と職員の会話のきっかけになっている。加湿空気清浄器で湿度を管理するなど、快適に過ごせるよう配慮している。	居心地よく過ごせるように、いろいろ配慮しているが、トイレなどの臭いが若干気になった。対策の検討が期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様と会話ができるようにリビングにソファを置いたり、テラスに椅子とテーブルをみんなで作ったりして、くつろげるスペースを作りました。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自分の使っていた物や好みの色のカーテンを持ってきていただき、居心地の良い空間作りをしています。	居室のカーテンは利用者の希望で色を決めている。ベッドは木目調の物を選択できるなど「第2の我が家」になるよう利用者や家族の意向を大切に考えて居室をつくっている。持ち込まれた家具は角を保護するなど、安全にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリー設備を付けて、必要に応じてスタッフの支援を受けながらその人らしく支援自立して自立して生活が送れるよう見守りや介助している。		